

人数が減っても、就業率が下がったとは限らない

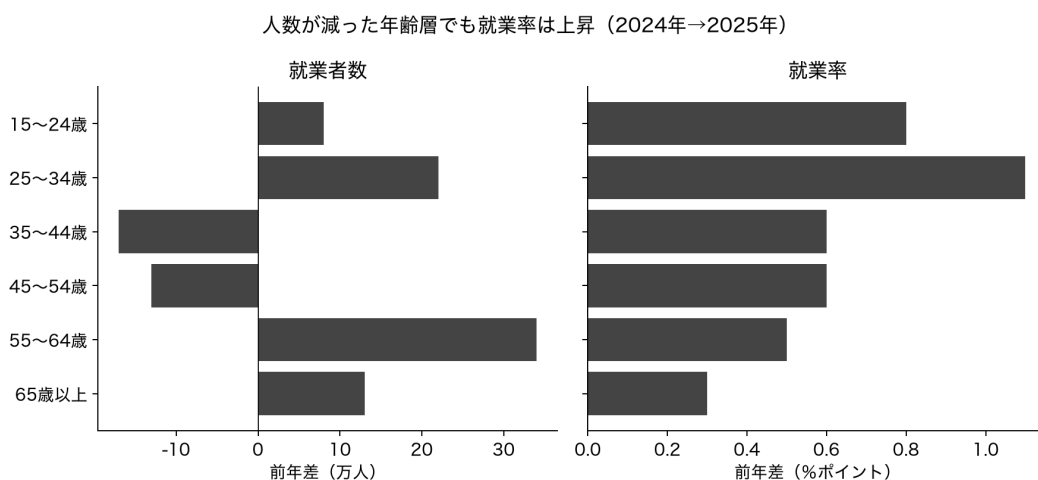
2024年から2025年に全国の就業者は47万人増加。男性は3万人増、女性は44万人増です。

35～44歳は17万人減、45～54歳は13万人減でしたが、就業率はいずれも0.6ポイント上昇しました。人数と対象人口に占める割合は別々に確認します。

公表値の丸め幅を考慮しても、両区分の「人数減・率上昇」は変わりません。ただし、標本誤差を含む有意差検定ではありません。個人の就業意欲や能力は分かりません。

企業では地域・職種別に応募者数と採用率、対象となる母数を並べます。全国平均を個人の採用判断に用いることはできません。

出典：総務省・労働力調査の2024・2025年平均を加工。



2024年から2025年への年齢階級別就業者数と就業率の増減